

# 駅前広場の機能と施設配置について

富山駅周辺整備協議会

2003. 10. 16

京都大学 中川 大

# 駅前広場の役割

- ・ 駅前広場は都市の顔
- ・ 都市のイメージを決める

鉄道と都市との接点



鉄道の活力を都市の賑わいにつなげる  
都市の賑わいを鉄道の活力につなげる

賑わいの空間・人が集う空間に。

# 駅前広場の現状

よくある駅前広場のレイアウト。



- ・ 誰のための駅前広場なのか。
- ・ 賑わいの空間と言えるか。
- ・ 鉄道と都市を分断していないか。

## 駅前広場の機能を考える

- タクシー待機スペース → 必要だがコンパクトに。
  - ・ 駅前広場の無駄遣いの代表。
  - ・ 待機スペースが大きくても客が増えるわけではない。
  - ・ 無駄な待ち時間が発生。タクシー会社にもデメリット。
- 自動車アクセス・駐車場 → 必要だがコンパクトに。  
できるだけ目立たないように。人の流れを分断しないように。
- 公共交通 →
  - ・ 乗り換えに上下移動を少なく。  
JR改札口、路面電車、バスは同一平面に。
  - ・ 乗り換え距離を1mでも短くする努力を。
  - ・ バスターミナルは、コンパクトな方が利用しやすい。  
島式は失敗が多い。

# 賑わい空間としての駅前広場

## ●賑わいの創出

- ・空間を自動車で埋めても賑やかとは呼ばない。
- ・人が集い・行き交う空間に。

## ●開かれた空間

- ・開放的な空間であること。
- ・自然光が多く取り入れられていること。
- ・天井高をできるだけ高く。外へ向かって開く。

## ●対面の街とのつながり

- ・対面する商業施設等に平面で到達できるように。
- ・駅前広場を平面で横断して対面の街に行けることは賑わいのための必須要件。

# 富山駅の駅前広場への期待

- 多くの駅前広場の形態  
鉄道会社・バス会社・タクシー会社の力関係で決まってきた。



- 都市のため、市民のための駅前広場に。
- 交通をさばくという視点ではなく、「利便性」と「賑わい」の視点で。
- 交通機能はスマートにさりげなく処理。

## 北陸の時代が来る

(自然が豊かで、交通利便性が高い地域)

その表玄関にふさわしい新しいコンセプトの発信を。